

雪氷写真館⑦④ 氷河？立山， 御前沢雪溪の巨大氷体/Glacier? The large ice mass beneath the Gozensawa perennial snow patch in the Tateyama Mountains, central Japan.



図 1 末端のモレーンから見上げた 2009 年 9 月 17 日の御前沢雪溪. 雪溪末端の標高は 2550 m, 上端の標高は 2830 m, 表面傾斜は平均で 22° . 末端のモレーンから上端まで登るのに 1 時間以上かかる.



図 2 雪溪下流部でみられたムーラン. 写真は 9 月 17 日に撮影したもので, この時の直径は 40 cm だったが, 10 月上旬に再度観察したところ長さ 1 m, 幅 50 cm まで広がっていた.

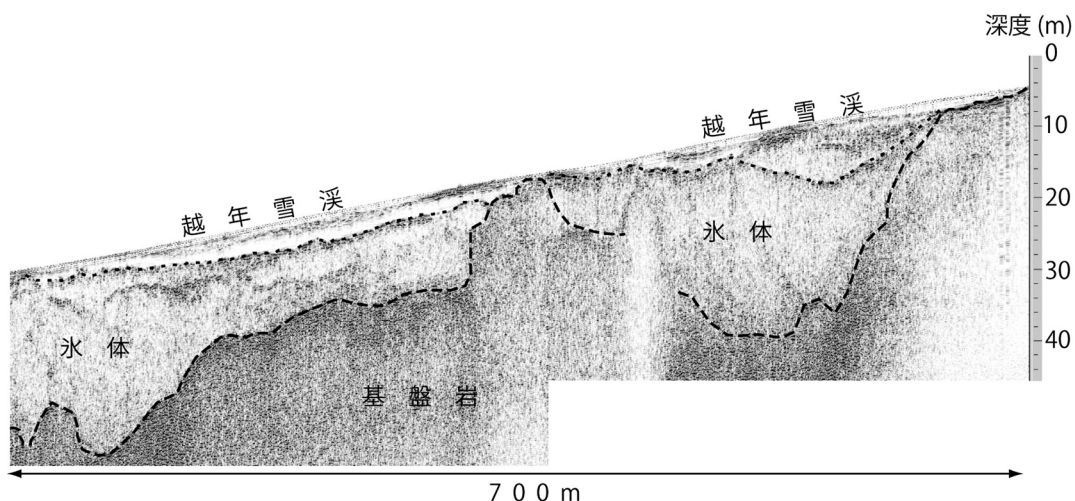


図 3 雪溪末端から上端にかけて観測した御前沢雪溪の地中レーダー断面（縦断面）。表層 5 m 前後の越年雪溪の下層に、厚さ最大 30 m に達する氷体が存在していた。ほかの地中レーダー断面（縦断面）では、下流に向かってせり上がる氷河と同じような氷の層構造も認められた。

氷河？立山，御前沢雪溪の巨大氷体

立山の主峰，雄山（3003 m）東面の御前沢（ごぜんさわ）雪溪は秋の終わり頃でも幅が最大 200～300 m，長さが 800 m に達する日本最大級の越年雪溪のひとつである。この雪溪は周囲を断崖絶壁に囲まれているためアプローチが悪く，厚さや内部構造について詳細な調査が行われていない。2009 年 9 月中旬にこの越年雪溪で地中レーダー観測を実施したところ，表層 5 m の越年雪溪の下層に厚さ最大 30 m に達する巨大な氷体があることが分かった。また，雪溪下流部にはムーランが 7 穴存在していた。ムーランの存在はこの氷体が現在でも流動している，もしくは過去に流動していたことを示唆する。今後の観測で氷体の流動が確認できれば氷河といえるだろう。

福井幸太郎会員・飯田 肇会員（立山カルデラ砂防博物館）